

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	09177600384		
法人名	株式会社 ふれあい		
事業所名	グループホーム樽川ふれあいはうす		
所在地	石狩市樽川3条2丁目97番地		
自己評価作成日	平成27年5月1日	評価結果市町村受理日	平成27年6月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域のイベントや行事、他のグループホームとの交流にも積極的に参加しています。  
 ・1日の中で、少しでも多くの笑顔が出るようにスタッフ間で話し合いをしています。  
 ・年に数回、全ユニットでの行事がある。ボランティアが来たときは、他のユニットにも声をかけ、交流を深めている。

## ※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0177600384-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0177600384-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成27年5月27日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム樽川ふれあいはうすは、石狩市樽川の住宅地に位置し、近くには同法人が運営する高齢者グループホームや障がい者グループホームが7件、地域の交流拠点となっている喫茶店も徒歩圏にある。広くゆとりのある事業所には観葉植物を多く栽培し、利用者が手入れにも参加するなど、利用者がゆったりと過ごせるように配慮している。特に利用者の個性や生活歴を大切にしており、入居前から飼っている小動物を継続して飼育できるなど、それまでの生活が継続できるよう支援している。事業所では昨年「見える化」事業として、事業所内や希望する利用者の居室にカメラを設置し、適切な運営と事故等の原因究明を通じた再発防止活動に取り組んでいる。職員のスキルアップにも取り組んでおり、認知症や救急救命の研修を行い、介護の質を高めるようにしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な会議の中で話し合いの場を持ちたり、日々のケア実践の場で立ち止まり、自ら振り返る様心掛けている。	ユニットごとに理念を掲示し、生活の場としてゆっくり穏やかな生活を送れるよう職員が意識している。利用者との会話を楽しむ時間を大切に、共に生活を送っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会主催の清掃、花いっぱい運動、夏祭り、防止訓練等に参加している。	町内会に加入し、神社の祭りには事業所の出店を出し利用者と共に地域を盛り立てている。地域防災訓練にも参加し、地域との連携を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の研修会等に参加している。内容は、全体会議の中で報告し情報を共有している。市の研修を受け、認知症まちかど相談所として、看板を掲げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催の中で、活動を報告し意見や提案をいただき、サービス向上に努めている。又、地域の方々との交流の場として活用し、意見を反映できるように取り組んでいる。	運営推進会議は2か月おきに開催している。年1回程度法人内の他事業所と合同で実施し、認知症等の啓蒙の機会を設けるなど、工夫している。	毎回、家族の参加を呼び掛けているが、参加が得られていない状況が続いている。議事録を家族に送付するなど、内容の周知や参加者の参加しやすい日時や内容の工夫を通じて、今後も継続した取り組みが期待される。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の訪問があり、ホームの状況を見て頂き意見を頂いている。又、市内のグループホーム協議会の研修にも積極的に参加し、地域密着型としての機能を活かせるように取り組んでいる。	石狩町の介護相談員が2か月ごとに訪問し、利用者と同様に生活ぶりや意向を汲み取り、事業所と連携している。介護保険課や地域包括より、運営の助言を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議等の場において、身体拘束になる行為などを再確認することで、気付かないうちに身体拘束をしてしまうことのないよう心がけている。	マニュアルを設置し、職員がいつでも振り返ることができるようにしている。毎年順番に職員が外部研修に参加しており、伝達研修を行っている。玄関の施錠は夜間のみ防犯のために行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、ケア会議等で話し合い、日々の言動や行動で虐待の可能性はないか、見過ごしていることはないか注意を払い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加してスタッフの会議等で説明し、理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームのケアに関する考え方や取組の説明を行っている。重度化や看取りについての対応など詳細に説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方が何を考え、何をしたいのか不満などないかを、さりげなく聞き出す等、思いに添えるよう努めている。又、スタッフ間でも情報を共有し反映できるようにしている。	来訪時にはできるだけ意向を引き出せるよう働きかけ、毎月事業所の便りも送付している。病院受診対応の相談などに乗り、事業所でカメラを導入した際にも説明を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期のユニット会議があり、全職員が意見を出せるようにしている。	ユニット内の会議だけでなく、全体会議を行い、職員間でのコミュニケーションが良くなるようにしている。より良いケアの方法などを含め、話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も定期的に来訪し、入居者様やスタッフと交流を持ち向上心を引き出せるように努めている。又、研修参加や資格取得に向けての取り組みもやっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や道、協議会主催の研修に受講できるようにし、内容は全体会議にて報告し職員全員が共有できるようにしている。又、働きながら学ぶ機会を大切にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やグループホーム連絡会議に参加して交流を深めたり、お互いにお祭りや行事に招待し合い交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	ご家族を交えた面談を通じ、入所への不安を把握し入居後もじっくり話を聞く機会を作り、信頼関係が築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでじっくり話し合い、本人やご家族の状況を把握し、入居後も適宜報告相談を行い信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談する中で本人やご家族の状況を把握し何が必要なかを話し合い支援の方向を見極めて、柔軟に対応できるように心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は出来るだけ自分でしていただき出来ない所を支援するようにしている。又、笑いのある会話を心がけたり、良い関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りや電話、面会時に日々の状況を詳しく伝えたくて要望等を聞くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得て、買い物や理美容へ出かけられる様支援し、又、知人友人の方の来訪時もゆっくりして頂けるよう配慮している。	近隣から入居した利用者が散歩のついでに馴染みの地域を散策したりしている。昔の知り合いなどの来訪もあり、利用者とゆっくり過ごせるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ間で利用者同士の関係について情報を共有し、個々に合った過ごし方が出来るように配慮、他者とのふれあいの場面作りにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際にはお見舞いに行ったり、退院後についての相談があった際には助言させて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で観察している。本人のニーズや暮らし方の希望、ご家族の思いなども大切に受け止め、本人の訴え等から課題や問題点を把握し改善を図っている。	寄り添い、一緒に生活する中から利用者の希望やしたいことを汲み取っている。必要に応じて24時間の生活の様子をアセスメントし活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や面会時にご家族から伺ったり、会話の中で情報を得て把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握すると共にその時の身体的、精神的な変化を見極めながら把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族からの要望や思いを聞き、その人らしく暮らせるような計画が出来るように適宜カンファレンスを行い個々に出した意見を反映するように心掛けています。	職員が参加し、変化があった場合は随時、落ち着いている場合は半年ごとにモニタリングを行い、介護計画を作成している。利用者のできることや生活の力を大切に介助方法を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中から気付いたことを特記欄に記入し情報を共有、会議等で検討しプランに反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様からの要望に添い、当日の急な外出・外泊にも柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では、市職員、民生委員の方に参加して頂き、近隣の学校との交流や避難訓練には消防署や地域住民の協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医と連携を図り定期的受診や往診で体調の変化に配慮している。	往診医を依頼している利用者が大半となっている。入居前からのかかりつけ医の受診は家族対応で、必要に応じて職員が同行したり、事業所での生活の様子を文書にして渡している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置。日常の健康管理をしており、24時間体制で連絡が取れるようにしている。又、日々の体調についても相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、本人への支援方法についての情報提供を行い、ご家族とも情報交換し、早期退院へ向けての連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にご家族様より、事前指定、重度化、看取りの指針について説明し同意を得ている。又、随時意見を聞いている。	事業所の往診医は、希望に応じて看取りまでの対応が可能となっており、実績もある。契約時に説明と同意を行い、利用者と家族の意向を踏まえて支援できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生術やAEDの講習会に参加し、緊急時に対応できるように努めている。又、緊急時対応マニュアルを整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回の避難訓練を実施。近隣の方にも参加を呼び掛けている。又、様々な防火に関する研修会にも参加している。	年2回の消防立会の避難訓練には地域からの参加もある。地域主催の地震想定避難訓練にも利用者とともに参加し、実際に避難所までの経路を確認している。災害備蓄も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄に関しては、各居室にトイレがあり出来るだけ他者に気付かれぬ様声かけを工夫することでプライバシーが守られるよう配慮している。	職員を対象に認知症の研修を行い、利用者を尊重した対応ができるようにしている。また、昨年導入したカメラの設置についても、居室内外の録画は同意を得て行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物や、飲みたい物、着たい服など出来るだけご本人の意見を引き出せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の気持ちを尊重し、日々その人らしく暮らして頂ける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や服装など、本人の意思を確認しながら一緒に準備するよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き出してメニューに取り入れられるようにし、準備や後片付けも一緒に出来るような場面作りにも配慮している。	ユニットごとにメニューが異なり、利用者が好きなものを提供できるようにしている。喫茶店に出掛けたりと変化を付け楽しみとなるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食スタッフも一緒に食事をする事で、量や好み、食べ方を把握、水分チェック表で確認しながら飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に合わせて声かけや介助にて行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間やパターン、本人のサインなどを把握し、出来るだけトイレでして頂けるよう支援している。	利用者ごとに介護の方針を統一し、声掛けの文言や介助方法を検討し利用者が気持ちよく排泄できるよう取組んでいる。各居室にトイレがあり、羞恥心への配慮も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事バランスや水分摂取量を管理すると共に排便確認や医師から処方された下剤を服用することで予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人に希望に沿った形で入浴して頂けるよう配慮している。拒否、体調不良の方は曜日を変えたり柔軟な対応もしている。	週2回ずつ、利用者ごとに入浴日が決まっている。午後の時間帯で利用者が安心して入浴できるよう必要な場合は職員2名体制をとり湯船に浸かってリラックスできるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調や気分に合わせて、ゆっくり休息できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルがあり、用法・用量についても把握するよう努めている。又、服薬忘れ、誤薬の無いよう声を掛け合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々によって掃除、食器拭き、音楽鑑賞など役割や楽しみが持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物と一緒に出掛けている。歩行困難な方も車椅子を使用し積極的に戸外に出ることを支援している。	食品や日用品の買い物などの希望に応じ外出を行っている。外食や公園にお弁当を持って出かけるなど、天気の良い日には外出を行っている。毎月行事も実施し、できるだけ外出の機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人からの希望に応じてお金が使えるようにしている。ご家族の協力を得て十分な連携を図り少額のお金を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時、電話や手紙を出したり出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方が混乱しない程度に配置換えをしたり、カーテンによる日差しの調整、花などを飾って季節感を出すよう工夫している。	居間と食堂スペースが分かれており、利用者の写真や観葉植物が飾られている。ウッドデッキも各ユニットにあり、外気浴やお茶を楽しむなど、活用している。エアコンも完備され、快適な環境になるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、ソファ、畳、バルコニー等皆さん思い思いの場所で過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	相談の上、ベットやタンス、椅子やテーブルなど使い慣れた物を持ちこんで使っている方もいる。	各居室にはカーテンで仕切られたトイレとミニキッチン、収納クローゼットが造りつけとなっている。入居前からの小動物を飼育できるなど、生活の継続に配慮している、	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた声かけをし、混乱を防ぎ、安心・安全に生活が送れるよう配慮している。手すり設置、バリアフリー		